



住民主体のまちづくりは民主的な会議から 「会議の進め方講座」が開催

REPORT ③



▲会議をうまく進める手法を学ぶ参加者

西城地域の各自治振興区の構成員を対象にした「会議の進め方講座」を10月から12月にかけて開催し、18ある自治振興区のうち11の自治振興区から、延べ約80人が受講しました。

この講座は、自治振興区の役割が重要さを増す中、参加者一人一人が自分の意見を述べ、議論を積み上げて地域の将来を決定する「参画型会議」の手法を身につけることを目的に開催されたものです。

4回の講座を通して、参加者誰もが気持ち良く意見を出し合える会場づくりや雰囲気づくり、スムーズな会議進行の手法などの理論を学び、会議の進行役や記録者を務める会議実習などを体験しました。

受講者は「これまでに経験した中で一番有意義な研修だった」「時間はかかっても、民主的な会議を地域の文化として根付かせ地域づくりに生かしたい」などと話していました。

REPORT ④

後世に伝えたい伝承の舞 戸山会新春神楽公演会

口和の伝統芸能「常定神楽」継承団体「戸山会」の新春神楽公演会が1月2日、口和老人福祉センターで開催されました。

戸山会は、郷土に対する理解を深め「常定神楽」を後世に伝えていくことを目的に、平成6年1月1日に発足。会のメンバー30人は、毎週1回の練習を重ねながら、年4回程度の公演や口和中学校神楽同好会の育成・指導を行っています。

今回で11回目となる公演には約70人が来場。清めの舞・猿多彦の能・素佐の男の尊・恵比寿舞が演じられ、

大蛇の登場で泣く子もいましたが、恵比寿舞の餅まきでは、もらった福餅を手に大喜び。新春神楽を大いに楽しんでいました。

同会の前田薫会長は「少ない会員だが、今後も続けていきたい」と話していました。



▲素佐の男の尊の一場面

ふるさとを愛する気持ちを図書に込めて 高野小学校に「曾田文庫」

REPORT ⑤

高野町新市出身の曾田隆夫さん(故人:廿日市市)から高野小学校に図書292冊と書架1台が寄贈されました。これは「生涯にわたり生まれ育った高野を故郷として愛し慕っていた」という隆夫さんの思いを息子の正浩さんが受け継ぎ、今回の寄贈となりました。



▲贈呈式に出席した曾田さん夫妻 右上の写真が隆夫さん

12月7日、高野小学校で行われた贈呈式には、曾田正浩さんと妻のまき江さんが出席。曾田さん夫妻は重光登校長に寄贈目録を手渡し、「子どもたちがこの図書を役立て、高野の地をふるさととして愛し誇れるよう頑張っ
てほしい」とあいさつ。児童を代表して図書委員の中林寧々さんと曾田彩水さん(ともに6年)が「いただいた図書はみんなで大切にします」とお礼を述べました。
贈られた図書は「曾田文庫」と名付けられ、児童が大切に利用しています。



▲寄贈された図書と書架



ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート Camera Report

REPORT ①

大災害を教訓に一層の防災を誓う 庄原市消防出初式

平成23年庄原市消防出初式が1月9日、市総合体育館で行われ、消防団員761人と備北地区消防組合の消防署員64人が参加しました。

式では、厳かな雰囲気の中、新入団員への辞令交付や永年勤続者への感謝状の贈呈、滝口季彦市長による観閲などが行われました。また、初期消火などに努められた一般市民の方へ上原清司消防団長から感謝状が贈られました。



▲新入団員を代表し、口和方面隊の吉岡雅敏さんが宣誓



▲訓示を行う上原団長



1月1日から新しく団長に就任した上原団長は「昨年7月16日に発生した庄原市ゲリラ豪雨は、未曾有の被害を発生させ、住民の安全は著しく脅かされた。この災害を教訓に消防団の組織力・動員力・地域密着性を発揮し、訓練、教養に励み、恐るべき災害の防止、被害の軽減に取り組もう」と訓示しました。

昨年、市内では30件の火災が発生し、一昨年より9件減っています。

東城の歴史や伝統が一枚に 第2回「東城の四季・出会い」フォトコンテスト

REPORT ②

次世代に継承していきたい東城町の四季折々の自然や人々との出会いをテーマにした作品を競う、第2回「東城の四季・出会い」フォトコンテストが開催されました。

東城町観光振興キャンペーン実行委員会と庄原市文化協会東城支部が主催するこのコンテストに、県内外から自然部門18点、生活文化部門30点、計48点もの作品が寄せられ、その中から最優秀賞1点、2部門からそれぞれ優秀賞1点、入選10点が選ばれました。



▲優秀賞 生活文化部門「供養田植」 安部萬侑さん(福山市)



▲優秀賞 自然部門「清流」 小田 弘さん(新見市)

最優秀賞に選ばれた、谷岡隆さん(呉市)の作品「お披露目」は、「塩原大山供養田植」という数ある東城の行事の中でも歴史と伝統ある行事を題材にし、多くの人々が携わるところなど、東城の良さがよく現れている」と高く評価されました。

審査員は「多くの方々に東城を訪れていただき、またこれらの作品を通して東城のよさを感じてもらいたい」と話していました。

入賞作品は、昨年秋に開催された「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」で展示され、訪れた多くの人々の目を楽しませていました。

●市内の入賞者

入選:奥村恵二さん(三日市町)、冲山由美子さん(西本町) 立花敏之さん(三日市町)



▲最優秀賞「お披露目」 谷岡 隆さん(呉市)

REPORT ⑥

体験交流から新たな産品づくりを目指す
比和の特産市場が「こんにゃく作り体験交流会」を開催

グリーンポート吾妻路で11月28日、「こんにゃく作り体験交流会」が開催されました。この交流会は、グリーンポート吾妻路の有効活用と新たな比和の産品をつくることを目的に比和の特産市場が企画したもので、このたび初めての開催となりました。

当日は、関西方面からの参加者を含め7人が参加し、同市場のメンバーに教わりながらこんにゃく作りに挑戦。出来上がった



▲こんにゃく作りを体験する参加者

こんにゃくはさしみにして味わい、広島牛たきこみ弁当や漬物をほお張りながら、今後の比和の産品づくりのアイデアなどを出し合いました。

同市場のメンバーは「出されたアイデアを今後の商品開発に生かしていきたい」と話していました。



▲丸いこんにゃくが完成

市役所市民ホールが芸術的空間に
庄原ナイトアッププロジェクト

REPORT ⑦

「まちなかホワイトイルミネーション」の一環として市役所市民ホールをライトアップする「庄原ナイトアッププロジェクト」が、12月24日から1月15日にかけて実施されました。

広島市立大学芸術学部が取り組んだこのプロジェクトは、『いま市役所から動き出す』をテーマに、ガラス張りで開放的という市民ホールの特性を最大限に利用し、発光ダイオードによる電飾や使用済みの紙などをつくる環境にも配慮した演出で、市役所とは思えない芸術的な空間を作り出しました。

また、1月14日のクロージングイベントでは、光と影を巧みに利用した映像と軽快な音楽で、まるでダンスホールのような空間が演出されました。同学部に演出を依頼した、光のまち庄原実行委員会の

塩本誠二委員長は「今後も同大学と連携し、庄原の魅力アップにつながる事業に取り組みたい」と話しています。



▲ライトアップされた市民ホール

REPORT ⑧

発表会で神楽を披露するぞ!
総領保育所園児が備後神楽を練習

総領保育所の園児たちが、生活発表会で発表するため、地域に伝わる「備後神楽」を練習しています。

きっかけとなったのは、昨年総領地域で行われた芸能祭で、総領神楽同好会の演じた備後神楽「八重垣（おろちたいじ）」を見て感動した年長組の子どもたちが、大蛇や太鼓、笛をダンボール箱から作って神楽ごっこを始めたことからでした。

12月10日、同好会による訪問公演が総領保育所で行われ、この日から同好会のメンバーに神楽の舞い方や台詞などを教わり始めました。園児たちは「おじいちゃんに教えてもらってうれしい」「神楽をいっぱいや

りたい気持ちになった」と一層神楽の楽しさを覚え、週1回の練習を楽しく続けています。

園児たちが演じる神楽は、2月中に開催予定の生活発表会で発表される予定です。



▲役になりきり練習する園児たち